

木造薬師如来立像（浄西寺・油宇）



ヒノキ材の一木造りで、頭・髣部・両腕の手首、蓮台の模様部分を含めて堅一材から彫り出している。八角形の基台とは柄で連結している。その基台の底には、墨書きで「慶長十三年戊甲弥生吉日／佛師山月坊／建立藤原朝臣神藤道慶本願／石崎善兵衛丞／文安二年二月十一日乙丑／峇弘治参丁巳九月吉日藤原氏各敬白／再色旦那各々本命元辰星斗」と記されている。終わりの3行がもともとあった銘で、初めの4行は後に追記された銘と思われる。制作年代が記されているのは珍しく、墨書からは本像が制作された年月日が文安2年（1445年）2月11日であること、弘治3年（1557年）9月に再彩色が行われたことがわかる。

仏像の特徴をみると、頭部の盛り上がりの肉髻は低く、比較的大粒の切子型の螺髪が刻まれている。目は木を直接彫り込んだ彫眼で、耳たぶは貫通している。両腕はひじを曲げて前方に突き出しているが、左右とも手首から先が欠けている。両肩を覆う袂衣をまとい、足先をわずかに開いて蓮台上に立っている。

先述の基台にある銘文の筆跡も室町時代のものでと思われ、地髪とほとんど段差のない低い肉髻、大粒な螺髪、面長の四角張った顔、膝下に多少の変化を表すことが形式化した衣の形などからも室町時代の彫刻の特色を今日に伝えている。素朴な作風であるが、制作の時代を明らかにする墨書銘があり、その地域で厚い信仰の対象として守られてきた歴史もうかがい知ることができ、資料的に価値が高いものと言える。

《周防大島町文化財保護審議会委員 菊本 雅喜》

一緒に出かけることが多く、少し変わった趣味を持つている友人がいます。彼女は行ったことのない場所に出かけると、道路のマンホールをチェックして気に入ったものを写真に収めるのです。今までは何か描かれているかなど気にも留めなかったマンホールでしたが、私も彼女の影響で興味を持つようになり、気にして見るとマンホールはその地域のことを知ることができ面白い手段であることに気が付きました。

マンホールにはその土地ならではの名所や名品、花、歴史に関わることなどが描かれていて、郷土色が詰まっています。調べてみると、「マンホールカード」というものを発行している地域があり、全国191自治体22種類のカードがあるそうです。カードにはマンホールの

地域おこし協力隊員 山崎千寿の
しましまタイムズ
SHIMASHIMA TIMES
20
周防大島町定住促進協議会
☎0820(74)1007



▲橋で見つけた周防大島らしいマンホール

ふたの写真と設置位置の座標データ、デザイン由来とご当地情報も載っていて各地の役所や下水道事務所などで配布しています。その土地を訪れなければ手に入らず、数量も限定されているという特別感があつてなかなかの盛り上りを見せている様子です。

周防大島のマンホールも探してみると島らしいデザインのものがあります。みなさんも出かけた先で見ると面白いかもしれません。

次回の海そうじは10月28日(午後5時から長浜の海岸で行います。島時々半島ツアーの参加者のみなさんと一緒にお話ししながらゴミ拾いしませんか？